

# アトリエ琉游舎だより 82号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2020年7月1日発行

## Discover Japan

- 「ディスカバーワンダーランド」は1970年に国鉄が始めたキャンペーンです。「日本を発見し、自分自身を再発見しよう」という思いを込めて、大阪万博後に落ち込むはずの団体客から新たな個人客を掘り起こすという、既存の回復ではなく需要創造として企画されました。
- 50年後の2020年、コロナ禍で落ち込んだ観光需要回復のために多額の予算をつぎ込んだ「Go To キャンペーン」が行われようとしています。テレビなどで隅々まで紹介されてしまった日本を旅して、これ以上の何かを発見できるでしょうか。平成の時代に「自分探し」の旅に出て未だに放浪する私たちは、更にどんな自分自身を再発見できるでしょうか。
- 「毎日が発見！」というとノーワンダーランドな言葉に聞こえるかも知れませんが、日本のごく一部のこのコリーナを10分も歩けば、虫や鳥の声、木々の色彩や空気の匂いに、日々移ろい変化する毎日を発見することができます。私の毎日が「Discover Japan」です。
- 「回復」は悪かった状態を元に戻すことでありそこには発見はありません。私たちの税金を国が珍しくちょっとだけ還元してくれるというので、コロナ禍以前に回復するためではなく、コロナ禍を生きる私たちのこれからを創造するために活かしてみたらどうでしょう。
- とは言ってもそんな難しいことではないと思っています。自分自身の「Discover Japan」を楽しめば良いのです。朝起きて夜寝るまでの一日が全く同じ一日と言うことはありません。そのちょっとでも違う毎日を楽しみ喜び面白がる。それがいいのです。そこに温泉やグルメ私にとっては巡礼の旅など日常からのささやかな離脱があれば尚更いいかもしれません。
- 今日をいつもと違う一日と嘆き悲しむのでは勿体ない。コロナ時代の楽しい毎日を創造するために「Discover Japan」へと歩み出しませんか。「日本を発見し、自分自身を再発見」してみたら「どうも今の日本はおかしいぞ」と意外な発見をしてしまうかも知れませんね。

**詩話会**

7月11日(土)  
13時半から

**写経会**

7月12日(日)  
13時半から

**読書会**

7月14日(火)  
13時半から

**映画会**

毎週木曜日  
13時半から

**居酒屋の会**

毎月25日  
16時半から

7月の写経会は第2日曜日  
7月12日となります

7/2 木	13時半	疑惑の影(107分)	ヒッチコック監督。叔父のチャーリーを迎えたニュートン家。長女だけが彼に不信を抱く。次第に深まる叔父に対する疑念と謎。抑制された演出で緊張感を描いた佳作。
7/9 木	13時半	無防備都市 (102分)	ロッセリーニ監督。ナチス統治下のローマで活動するレジスタンスとお尋ね者の指導者と協力者の神父は指導者のかつての恋人の裏切りでナチスに逮捕されてしまう、、、
7/16 木	13時半	ラインの処女号 (85分)	ジャン・ギャバン主演。戦死したと思っていたジャック。そして妻はジャックの船会社を愛人のモーリスとともに乗っ取っていた。ある日復習を誓うジャックが現れ、、、
7/23 木	13時半	ハイ・シェラ (100分)	ハンフリー・ボガート主演。特赦で出所した凄腕の強盗犯ロイ・アールは、仲間のマックがお膳立てしたロサンゼルスの高級リゾートホテルの強盗計画に加わることになるが、、、
7/30 木	13時半	ロープ (80分)	ヒッチコック監督。完全犯罪を行うことで自分たちの優位性を示そうとした男二人、、、現実と映画の時間の進行を同じにした異色サスペンス。

梅雨は雨の止み間をぬって畠に行く楽しみがあります。途中藪に寄って支柱用の笹を10本程刈り取って畠に到着すると、一晩で胡瓜も葉物類も周りの雑草もぐんぐんと大きくなっています。1時間ほどの短い時間ですが、収穫し雑草を抜き雨風で倒れた作物に支柱を立て土を寄せてと、何もせず手ぶらで帰してはもらえません。しかし楽しみと同じくらいがっかりすることもあります。作物が病気かモグラの仕業か、原因不明のまま枯れてしまうことがあります。春先に撒いた小松菜は5月に食べ頃になりました。虫にも食べ頃だったのですが、まだ人間の食べる分は残してくれています。穴ぼこだらけの葉っぱもおひたしにすれば味も見栄えも問題はありません。ところが夏用にと5月に撒いた小松菜は虫除けの覆いにもかかわらず、2枚葉から本葉になるやいなや間引きする間もなくほぼ葉脈だけにされてしまいました。人の食べ頃は7月と思っていましたが、青虫の食べ頃はどうやら6月だったようです。”はらぺこあおむし”に丸ごと食べられた小松菜を見ると、あまりの見事な食べっぷりに感心するやらあきれるやら、夏の葉物野菜の調達のあてがハズレてしまいました。ところで売っている小松菜は葉っぱに穴一つあいていません。不思議です、、、でもないか。

梅雨の中休みのとても暑い日の夕方、突如畠がゲリラに襲われました。自然の影響は虫除けや気候対策など経験知の積み重ねで、完全に防げないにしても備えをして収穫を待つことは可能です。ところが雹には無防備でした。雹は降っても5分ほど、小豆ぐらいの大きさですぐ溶けてしまうイメージ。ところが今回の雹は20分以上も降り続けしかも砂利石大、すぐには溶けませんでした。翌朝畠に行くと葉っぱは大きな穴ぼこだらけ、虫食い穴の比ではありません。虫は葉脈まで食べ尽くしはしないので、先端まで水分が届く余地を残してくれています。しかし雹は容赦なく茎や太い葉脈までへし折っているので、その先に水分が届かず結局枯れてしまうのです。私は今年の収穫がなくても買って食べることができます。しかし農作物を売って食べていた人にとってはこれは死活問題でしょう。ましてや自給自足が原則だった近代以前の人々には、農作物の被害が即生死に関わっていたはずです。干害や水害であれば時をかけてため池や堤防を作り水路を変えるなどの備えが可能です。突発的に起る雹のゲリラ攻撃に、備え無き私は空を仰いで呆然とするばかりです。

私はこのところ狂言綺語で「信」について書いてきました。「信」は「信仰」でも「信する」ことでもありません。では何かと言うことを、先人の言葉や行動、私の日々の生活の中から感得したことなどを手がかりに多角的なアプローチをしてきました。「信」を論理的に普遍化できれば良いのですが、私は各々に「信」があると考えるのでそれがとても困難なのです。お釈迦様にはお釈迦様の「信」が日蓮聖人には日蓮聖人の「信」がそして私には私の「信」があると言うことです。「ありのままに観たことを信じそのままに日々を行うことが安らぎの処そのものである」このお釈迦様の教えるままに日々を生きることが私の「信」であり「信」を生きることです。「信」は何か固定的な存在として指定されるものではなく「生きること」と一体となって「信=生きる」こととしてわたしの中に内在し続けるものです。ですから私の「信」は私だけの「信」なのです。そして他者には他者のそれぞの「信」があるはずなのです。一方「信する」ということは他者の「信」を肯定し理解をすることから始まります。その過程でお互いの異なる「信=生きる」が共感を生み共通項として、ある一つの行いや言葉に収斂していくことが「信する」という行為です。自分の「信」の中に他者の「信」を取り込むこと、つまり「信する」ことで、私は他者とともに社会の一員として「生きる」ことができるのです。次に「信仰」についてです。私はこの言葉をできれば使いたくはありません。「仰ぐ」という行為がどうしても私にははじめないです。「信」は自分だけのものであり、互いの「信」を尊重し合い共有したいと願うことが「信する」ことです。そこに何かを「仰ぎ見る」必要はありません。この世に「信」というかけがえのないものがあることを教えてくれた方はお釈迦様です。そのことでお釈迦様を尊重はしても、こと「信」に関する限りは、おののの「信」は等価であり、互いが尊重すべきものであっても仰ぎ見る対象では無いはずです。これが「信じて仰ぐ」ことを私が忌避する大きな理由です。

人の歴史は空を仰ぎ見ては地に目を落とすことの繰り返しだったのでしょう。降り注ぐ太陽や雨を喜び悲しみ、そして地に目をやっては期待し絶望する。私たちの恵みも禍も大概は空からやって来ます。適度であれば恵みをもたらし、過不足あれば禍をもたらしてきたのです。その空から降り注ぐものを地上で受け止め制御しようとした繰り返しが科学や宗教を作り、私たちの生活を豊かにしてきました。空ばかり仰ぎ見ていると信仰は盲信となり、自分の立つ地面ばかりに気を取られているとそこは不信の地となるでしょう。私だけの「信」を「生きる」ということはまず自分の足下の地面に「信」を置き、次に他者の「信」をありのままに観て共感し「信じる」ことです。そしてその他者とともに「生きることを喜ぶとき、その時がお釈迦様と共に生きているという「信」を私が確信できる瞬間です。私が今立つ場をすっぽりと包む空間に優しく包まれその空間と一体化し心安らかに日々を生きること、これが私の「信」であり安らぎの処です。

空から降り注ぐものは慈悲の光や雨ばかりだと思ってぼーっと空を見上げていると、カラスのフンをぽとりと落とされたり、雹にあたって頭に瘤を作るかもしれません。幸い私はまだ直接的な被害には会っていませんが身代わりに作物や車やベランダが天からの無慈悲な恵みを受け取ってくれています。私はお釈迦様に帰依してから「仰ぎ見る」という行為を一切していません。仰ぎ見るまでもなく空からは 琉游舎・戸井 出流・恭子  
お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152  
矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850